

科学リテラシーを考える

福井大学 附属国際原子力工学研究所

泉 佳伸



この原稿を書いている頃、世界中がいわゆる新型コロナウイルスの感染の拡大とそれによる新型肺炎の発症に注目しています。日本でも「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」による基本方針の具体化、政府の「新型コロナウイルス感染症対策本部」の開催を経て、新型コロナウイルス感染症対策の基本方針が決定されました。また、首相による小中高の休校要請という異例ともいえる対応に発展してきました。一連の流れには賛否両論があるものの、防疫や危機管理の観点からは妥当だったのではないかと考えています。

一方、インターネットの SNS 等では怪しげな情報が飛び交っています。ごく一部を紹介します。マスクやアルコール等だけではなく、直接には関係のない「ティッシュペーパーやトイレトペーパーの不足」というデマ情報が流れて混乱が生じたようですし、「ウイルスが熱に弱い」という理由で温かい飲み物を推奨する人が現れる等、科学リテラシーの向上が急務であると感じさせられました。また、一次情報を確認することの大切さを痛感しています。このような社会現象は今回が初めてではなく、オイルショックの時のトイレトペーパー騒動の記憶や、福島第一原子力発電所事故以降のデマ、風評被害、いわれなき差別等の非常に悲しい記憶がよみがえり、「また同じことのくり返しか……」と、とても残念でなりません。

日本放射線化学会は放射線に関する化学を主たるフィールドとして、物理や生物にいたるまでの幅広い領域の研究者・技術者集団であります。このような状況下においては「社会に対して何が出来るか」を考えねばなりません。個々のデマ情報に対して反論・反証するのも一つかも知れませんがとても追いつきませ

ん。学会として何らかのステートメントを公表するのも一つのやり方だと思います。あるいは正しい知識の普及活動に取り組むというのがあります。

今回、「新型コロナウイルス」という我々の分野とは異なる話題が社会を騒がせていますが、この機会に9年前に起きた福島第一原子力発電所事故とその後の混乱、風評被害、デマ等をもう一度見つめ直し、どのようにすればよかったのか？ 今後どのようにしていけばよいのかを考えています。簡単ではありませんが、教育や人材育成が長期的には重要な解の一つとなるでしょう。今回の新型コロナ騒ぎにしても福島事故後の風評被害にしても、悪意のない（善意からの）情報拡散があり、結果的にはそれがデマであり、風評被害に繋がったことを考えると、我々研究者・技術者集団が正しく理解し、正しくかつわかりやすく社会に発信し、一般の方々にも正しい知識を持っていただくことはとても大事だと改めて感じています。

各機関では成果を厳しく問われ、特に若手研究者にとってはしんどい研究環境になっているかも知れませんが、しかし、若手を疲弊させることなく、のびのびと自由に研究に取り組める環境を与え、中堅以上は成果主義のみに走ることなくバランスよくアウトリーチ活動にも務めることが大事なのかな？ と思う私はオッサン世代になってきたのかな？ 等と考える今日この頃です。世の中がめまぐるしく変わっていく今の時代こそ、学会や研究者・技術者集団の価値が問われると思わずにはられません。皆さん、共に頑張って参りましょう！！

Thinking about the importance of scientific literacy
Yoshinobu IZUMI (Research Institute of Nuclear Engineering,
University of Fukui),
〒914-0055 福井県敦賀市鉄輪町 1-3-33
TEL: 0770-25-0095, E-mail: y_izumi@u-fukui.ac.jp